令和6年度文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業

1970年大阪万博の展示映像のデジタル化

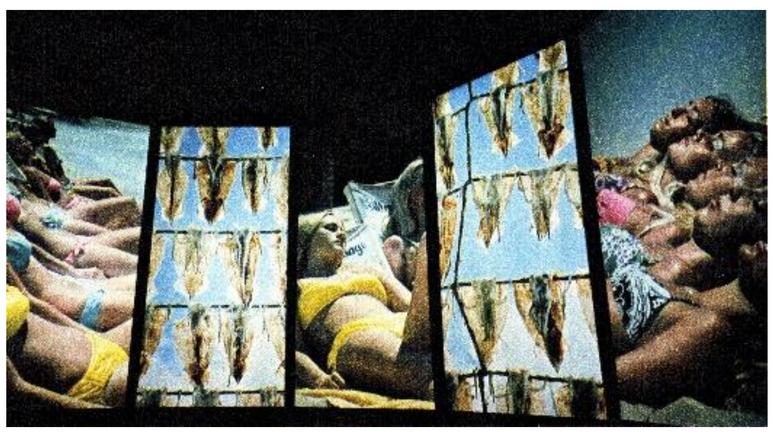
一般社団法人展示映像総合アーカイブセンター

概要／課題

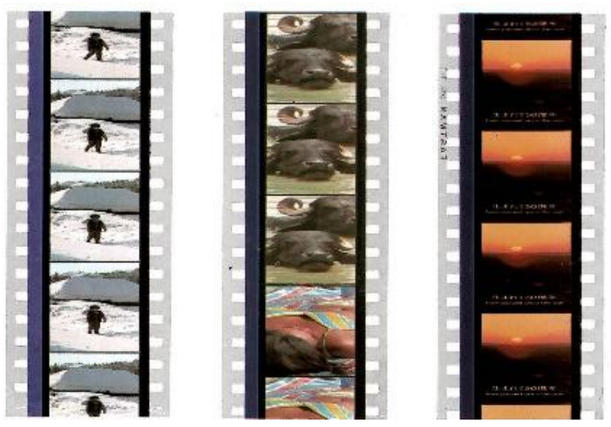
「展示映像」はイベント等での上映期間を終えると、作品の多くは上映空間や機材が撤去されることもあり、総合的に保存されることは稀である。廃棄されたり散逸する作品も多く、映画のような組織的なアーカイブとは無縁の映像である。この展示映像を後世に残すことをめざして本事業を進めた。今年度は一社)展示映像総合アーカイブセンターセンターで保有している展示映像の中から、メディアの劣化が危惧される次の作品のデジタル化、データの一部公開を作業目標とした。

作品名：『太陽の狩人』1970年大阪万博／電力館（5面マルチ映像,16分）。オリジナルは35mmフィルムによる縦型のシネマスコープ映像を横に5面並べてで構成した。恩地日出夫監督作品。パビリオンの映像ホールにて上映中のものを、そのまま16mmフィルムで撮影収録した「5面合成版(註)」が残っている。不正確なアスペクトと同時に退色が酷いため、再現可能な状態を目指してデジタル化を行った。

電力館内の映像ホール



上映中のスクリーンショット



上下に圧縮撮影されたフィルム

体制

事業推進にあたり旧メディアからのデジタルデータ変換に最新の技術的サポートが期待できる(株)IMAGICAエンターテインメントメディアサービスの協力を得た。フィルムは適切に保存されていなかったため、色彩情報のほとんどは欠落していたが、その補完･修復にも対応できた。またメディアの管理や今後の試写の環境を確保する必要があることから、九州大学大学院芸術工学研究院の助言を得て実施した。

成果

＜成果物＞

デジタル化によるスキャンデータの出力はDSM（映像と音声とを個別に取得している）、UHDマスター、HDマスターとした。色調、シャープネス、アスペクト、目地等の諸課題が混在したフィルムであったが、十分に鑑賞に堪えうる修復ができた。

＜公開方法＞

令和5年度の成果物『未来への挑戦～渋沢栄一物語～』は九州大学附属図書館芸術工学図書館が主催となって公開上映が実現した。公的な機関による上映実績を踏まえて、今回も2025年内に九州大学大橋キャンパスにて公開予定である。

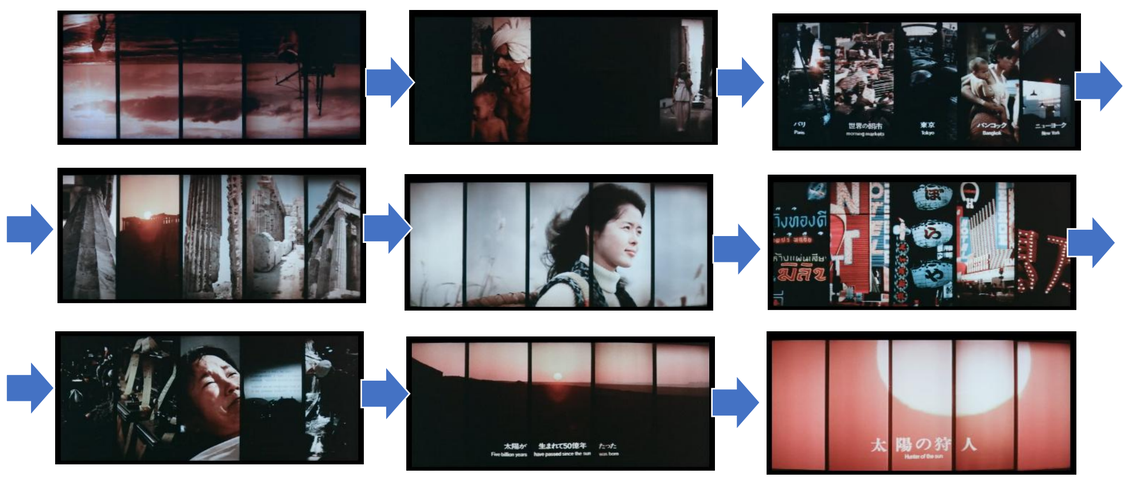
＜文化的･社会的な意義＞

2025年は大阪･関西万博の開催年でわが国で6度目の万博である。初めて日本が主催国となった1970年万博の展示映像がほどんど残されていない中にあって、この『太陽の狩人』は合成版とはいえ、当時の特殊な5面マルチ映像がそのまま再現される珍しい事例である。出展者である電気事業連合会による万博テーマの解釈、映像に託したメッセージや制作技術が検証できる意義も大きい。

現存する5面合成版の16mmフィルム

修復前のフィルム

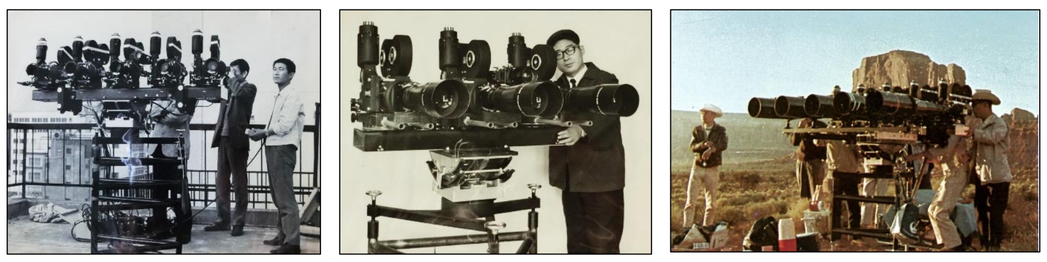
作品左右が圧縮状態で収録されている
退色がひどく元色の情報は不明



修復版のデータからのスクリーンショット。フィルム調の色彩がほぼ復元されている

今後の課題

万博の映像は希少性の高い映像である。同時に研究者にとってもまた制作者にとっても必見の価値ある映像である。本作品を含め、博覧会等のイベントで制作された展示映像の所在確認と適切なアーカイブを進めることが喫緊の課題である。



参考写真：左から5連カメラテスト、3連カメラテスト、5連カメラによる現地ロケ風景

＜註＞現地のスクリーンをそのまま撮影した「疑似的な合成版」と思われる。

＜写真資料＞一社)展示映像総合アーカイブセンター所蔵写真、人類とエネルギー:1970電力館の記録、EXPO'70写真集･日本万国博(朝日新聞社編)